

志布志港長期構想（素案）に係るパブリック・コメントの実施結果について

- 1 実施期間 令和6年6月13日（木曜日）から令和6年7月12日（金曜日）
- 2 意見の件数 34件（17名）
- 3 意見の概要と県の考え方

（注） 表中の番号欄は、件数番号です。（受付順）
 表中の項目欄は「志布志港長期構想（素案）」の項目です。

番号	項目	意見概要	意見に対する県の考え方
1	全体意見	<p>・志布志港の将来ビジョン 志布志港は、農林水産品の一大生産地を背後に抱えているが、農水産業に携わる生産者の所得は全国でも最下位にあり残念なことだと思います。</p> <p>原因として一次生産品をそのまま首都圏近郊の加工工場への移送するパターンが主流となっており、首都圏への移送のほとんどは国内消費をねらった商流であります。昨今の国内人口減少に伴う国内需要の低迷から、今後志布志地区の農水産の増加は見込めない現状があります。</p> <p>一次産品はどうしても生産者の方々の労力、コストの比重が高く、一次産品のままでの旧態依然の流れでは将来的な事業運営も難しいかと考えられます。</p> <p>今後は日本産品の高度な質を求める海外への売り込みがキーとなるかと思えます。</p> <p>また、一次産品のままで出荷する商流ではなく、二次、三次～六次化までを地方で完結させていくことが地域経済活性化のもとになると考えます。</p> <p>そのために、志布志港は農林水産業の生産品を港を使って、国内のみならず、海外へ直接出荷していく港湾にならなければいけません。九州でこのような港湾は、北部の博多港と南部の志布志港がその役割となると考えます。</p> <p>その役割をこなして行くため南九州としては、生産地⇒港湾（志布志港）⇒海外、国内の物流スキームのプロジェクトを立ち上げることが早急に求められます。</p> <p>国内トラック輸送（2024年問題）、温暖化（鉄道輸送網の災害による脆弱性）、環境問題（CO2削減）など事業継続の観点から志布志港の果たしていく役割は非常に重要であると考えます。</p> <p>ビジョンとして、将来の志布志港とその後背地のあり方を描き、志布志港に生産地からの食材を集められる付帯施設の整備、プロジェクトチームの立ち上げを求めたいと考えます。</p>	<p>本県では、農林水産物の輸出促進について、鹿児島県農林水産物輸出促進ビジョンにおける、令和7年度の輸出目標額500億円の実現に向けて、生産体制や販売力の強化に取り組んでいます。令和5年度における県産農林水産物の輸出額は、過去最高額となる約367億円を記録しております。</p> <p>こうした中、志布志港では、農林水産物・食品のさらなる輸出促進に向け、民間事業者や関連団体・行政機関と連携し、令和3年の農林水産物・食品の輸出額である21億円を令和12年には36億円とする「農林水産物・食品輸出促進計画」を取りまとめ、昨年5月に「産直港湾」として取り組むこととしています。</p> <p>このため、本構想においては、取組方針として農林水産物・食品の輸出拡大等に対応した環境整備などの施策に取り組むことを位置づけているところです。</p> <p>現在、コールドチェーンを確保するとともに、多様な温度帯の貨物に対応した、混載貨物の輸出環境の強化を図るため、冷凍・冷蔵施設の整備等を進めているところであり、今後とも、本構想に基づき、港湾管理者だけでなく、農林水産物の輸出を所管する農政部、販路拡大を図る商工労働水産部と部局横断的に連携し、ポートセールスや利用促進・販路開拓を図るための支援、志布志港を活用した輸出促進など取組んでまいります。</p>

番号	項目	意見概要	意見に対する県の考え方
2	P48 安全・安心に関する課題	南海トラフ地震による3m～5mの津波により志布志港に蔵置されている原木が浮遊し、被害を拡大させるとの想定は蓋然性が高いことから、「原木流出による背後地域への被害低減」の課題認識は適当であると思慮いたします。	本構想に基づき、安全・安心に係る取組を推進してまいります。
3	P51 基本理念と目指す姿	志布志港は、木材輸出货量やトウモロコシの輸入量も地域経済の発展にとってなくてはならない港湾施設であると考えております。長期構想として「地域のポテンシャルと稼ぐ力を引き出す、世界に開かれた“志”あふれる志布志港」を基本理念に取組を推進することに賛同いたします。	本構想に基づき、志布志港が地域のポテンシャルと稼ぐ力を引き出せるよう取り組んでまいります。
4	P71 施策Ⅲ-③	南海トラフ地震は、長期構想の計画期間中に発生する可能性が高いことから、「原木・コンテナ流出」の検討だけでなく、効果的な流失防止対策を早期に実施する必要があると考える。 なお、ハード対策には時間や費用がかかるため、リスクの被害想定がされる関係者に対しては、津波警報が発令された際には、早期の避難を呼びかける周知活動などソフト対策も並行して実施することが好ましいと考える。	志布志港において「原木・コンテナ流出防止対策」は、重要な課題であると認識しています。このため、本構想においては、原木流出防止の検討とコンテナ流出防止の徹底を位置づけているところです。 具体の施策については、他港の事例等も参考に、できる限り早急な対応ができるよう努めてまいります。 また、港湾管理者において、津波避難施設を整備するとともに、志布志市において、ハザードマップを公開し、市民に広く配付するなど、ソフト・ハードとあわせた対策に引き続き取り組んでまいります。
5	P57 具体施策 Ⅳ環境・エネルギー	今後の長期的な展望として、志布志港の物流・人流のための港湾整備が盛り込まれているが、自然環境の保全・再生・親水性向上等にも配慮して整備すべきではないか。	御意見の趣旨を踏まえ、「保全・再生」については「環境・エネルギー」分野の施策Ⅳ-④「環境に配慮したブルーインフラの導入」を追加します。 また、「親水性の向上」については、「人流・賑わい」分野の施策Ⅱ-①「地域に開かれた緑地公園の拡充」に追記します。
6	全体意見	今後の長期的展望として、鹿児島県と志布志市が共同で、地方自治法に基づく一部事務組合を設立し港湾管理者となるべきではないか。	志布志港においては、これまでも港の整備や維持管理、ポートセールス、利用促進を図るための支援等の実施など、輸出入の促進に向けて、志布志市と連携し取り組んできているところです。 本構想の実現に向け、引き続き連携して取り組んでまいります。

番号	項目	意見概要	意見に対する県の考え方
7	全体意見	海上自衛隊の定期的な寄港地を目指し、食糧供給基地の機能充実を図るため、備蓄倉庫の整備を図るべきではないか、並びに、食料調達についても、地元を優先すべきではないか。	自衛隊の運営については、防衛省において判断されることとなります。 食料の備蓄倉庫については、志布志市において、災害時を想定して設置を検討しています。
8	P61, P82 施策Ⅰ-④ ゾーニング（安全・安心）	各ゾーニングの検討で、原木ヤードが新若浜地区にターミナルを計画された。地震、津波、台風等考えると流失防止を含め、早急に整備されたい。	志布志港において「原木・コンテナ流出防止対策」は、重要な課題であると認識しています。このため、本構想においては、原木流出防止の検討とコンテナ流出防止の徹底を位置づけているところです。 具体の施策については、他港の事例等も参考に、できる限り早急な対応ができるよう努めてまいります。 また、港湾管理者において、津波避難施設を整備するとともに、志布志市において、ハザードマップを公開し、市民に広く配付するなど、ソフト・ハードとあわせた対策に引き続き取り組んでまいります。
9	P65, P66, P78 施策Ⅱ-①, ② 施策Ⅳ-④	育てる漁業の再構築を図り、商品開発を通して、中央緑地を利用した物産館にて提供するシステムをお願いしたい。 また交流を進めるために、このゾーンへの新たな進入路も計画できればと思う。現在の耐震バースの利用度を上げる対策も必要と考える。	志布志港は市街地に隣接しており、志布志市においても港湾を活かした「快適」で「安全」、かつ「活力」のあるまちづくりを目指しながら、文化・財産を「継承」していくまちづくりを進めているところです。 このため、本構想において、みなとを中心とした交流拠点の創出などの施策に取り組むことを位置づけているところです。 本構想に基づき、今後とも、志布志市と連携しながら、志布志港の発展と背後地の地域振興につながるよう取り組んでまいります。
10	P67, P81 施策Ⅱ-③ ゾーニング（人流・賑わい）	外港地区西側にクルーズ船の受け入れ整備が計画されているのであれば、ヨットハーバーを備えた施設として考えてほしい。	ヨットハーバーについては、現時点で具体的な需要を確認できていないため、志布志港周辺における今後の動向を注視してまいります。
11	P70 施策Ⅲ-②	港湾機能の維持に必要な作業船はありがたい。これに加えて、普段の湾内に浮遊しているごみの除去が可能な船の導入は考えられないか。（県内持ち回り可）	港湾管理上支障がある場合には、速やかにゴミ等の撤去が図られるよう努めているところです。

番号	項目	意見概要	意見に対する県の考え方
12	P65 施策Ⅱ-①	<p>人流・賑わいの創出を図る一貫として外港地区への緑地公園の配置が検討されているが、当地区にはフェリーターミナルも同時に移転する計画となっている。</p> <p>面積的に限られている事を考慮すると、駐車スペース等の確保が大きな課題になると思える。</p> <p>位置的に車両を利用する利用者が増えると考え事から、現在、道路前川沿いにある緑地帯を再整備し、散策道及び車両の駐車スペースとして活用する事で訪れる方々の利便性向上が図られるのではないかと。</p>	<p>志布志港は市街地に隣接しており、志布志市においても港湾を活かした「快適」で「安全」、かつ「活力」のあるまちづくりを目指しながら、文化・財産を「継承」していくまちづくりを進めているところです。</p> <p>このため、本構想において、みなとを中心とした交流拠点の創出などの施策に取り組むことを位置づけているところです。</p> <p>本構想に基づき、今後とも、志布志市と連携しながら、志布志港の発展と背後地の地域振興につながるよう取り組んでまいります。</p>
13	P47 緑地公園の低利用化の解消	<p>さんふらわあを利用する市民の声として、船を降りての風景は数十年間全く変わらない。さらに鬱蒼と木が茂り故郷の発展が感じられなく寂しい。</p> <p>緑地の管理も行き届いているとは思えないので、別の土地利用を考えるべきと思う。</p>	<p>本構想では、施策Ⅱ-①に若浜地区の緑地公園をフェリー機能の移転と併せて外港地区に移転し、にぎわい空間の創出を、施策Ⅳ-②に水素等の次世代エネルギー関連産業を誘致するため、土地の用途変更を位置づけています。</p>
14	P52, P66 基本戦略と取組方針 施策Ⅱ-②	<p>現在の志布志港は物流だけの港で住民が行ってみたいとは思えない魅力がない。ウッドデッキのある港でフィッシュ&チップスやピザなどが食べられる開放的交流の場所を設け、市外県外から若者が訪れたい町、港を作りたい。</p>	<p>志布志港は市街地に隣接しており、志布志市においても港湾を活かした「快適」で「安全」、かつ「活力」のあるまちづくりを目指しながら、文化・財産を「継承」していくまちづくりを進めているところです。</p> <p>このため、本構想において、みなとを中心とした交流拠点の創出などの施策に取り組むことを位置づけているところです。</p> <p>本構想に基づき、今後とも、志布志市と連携しながら、志布志港の発展と背後地の地域振興につながるよう取り組んでまいります。</p>
15	P68 施策Ⅱ-④	<p>体験型コンテンツに釣りやカヤックなどの体験活動を取り入れることで、大隅の自然を知ってもらえると思う。</p>	<p>本構想においては、みなとを中心とした交流拠点の創出などの施策に取り組むこととしています。</p> <p>また、県大隅地域振興局が令和6年に策定した「大隅地域の地域振興の取組方針」においては、地域の観光資源の発掘や磨き上げに努め、自然や環境、自転車・バイク、健康・癒しなどをテーマとする各種ツーリズムや農家民泊など、地域の特性を生かしたツーリズムを推進することとしています。</p> <p>いただいた御意見については、今後の施策の展開に際し、参考にさせていただきます。</p>
16	<p>体験型コンテンツに釣りや登山などの体験活動を取り入れることで、大隅の自然を知ってもらえると思う。</p>		
17	<p>体験型コンテンツにサイクリングや登山などの体験活動を取り入れることで、大隅の自然を知ってもらえると思う。</p>		

番号	項目	意見概要	意見に対する県の考え方
18	P66 施策Ⅱ-②	<p>子供や大人でも楽しめるアクティビティ施設や志布志湾の景色を見ながら楽しめる船上食事施設、人が楽しく集うキャンプ場やBBQ場、船を待つ人や帰港した人がゆっくりできる癒やしのオープンカフェ、大隅出身の有名人やご当地キャラが集まるイベント広場などを提案します。</p> <p>誰でも楽しめる施設を設置することで観光客や地域の人などが気軽にこれる場所になると思う。また観光客の増加も考えられます。</p>	<p>本構想においては、みなを中心とした交流拠点の創出などの施策に取り組むこととしています。</p> <p>また、県大隅地域振興局が令和6年に策定した「大隅地域の地域振興の取組方針」においては、地域の観光資源の発掘や磨き上げに努め、自然や環境、自転車・バイク、健康・癒しなどをテーマとする各種ツーリズムや農家民泊など、地域の特性を生かしたツーリズムを推進することとしています。</p> <p>いただいた御意見については、今後の施策の展開に際し、参考にさせていただきます。</p>
		<p>みなとにフェリーさんふらわあや志布志湾を見ながらゆっくりできるオープンカフェや大隅の良さを活かした販売店の施設を設置することで、観光客だけでなく、地元の人も集まると思う。</p>	
20	P67 施策Ⅱ-③	<p>大隅の魅力を伝えるなら、ツアーメニューの中に大隅地区の自然に触れられる荒平天神、若潮酒造、鹿屋スカイミュージアムを入れたらいいと思う。</p>	
		<p>大隅地域の魅力を楽しめるような地域資源を活用した大隅の名物がある飲食店や佐多岬から見える絶景などをツアーメニューに追加すれば、観光客が大隅を満喫できると思う。</p>	
22	P46 海の玄関口としての景観配慮	<p>志布志港の臨港道路は雑草が繁茂し、景観を損ねている状態が頻繁に確認できる。現在は港湾緑地の管理を志布志市に委託しているが、臨港道路も含めて市に港湾全体の景観維持作業を委託する等、一元管理を基軸に継続性のある施策を検討すべきと思う。</p>	<p>臨港道路及び港湾緑地の維持管理については、限られた予算の中で、主に交通安全上、危険な場所や市街地に近い場所などを優先し草木の伐採、側溝清掃などを行っています。</p> <p>また、しおかぜ公園については、市に伐採等の維持管理を協力していただいております。今後も志布志市と連携して適切な維持管理が図れるよう努めてまいります。</p>

番号	項目	意見概要	意見に対する県の考え方
23	P62 施策Ⅰ-⑤	<p>モーダルシフトの進展に対応する施策の記載があるが、機能面だけでなく運転手に配慮した整備も重要と感じる。貨物車両運転手の休憩施設またはそれに準ずる設備を整備することで、さらなる利用促進が図られるのではないかと思う。</p>	<p>本構想では、モーダルシフトの進展に対応した、次世代高規格ユニットロードターミナルの形成の施策を位置づけています。 これは、フェリー・RORO船による、スムーズな輸送の効率性向上のため、情報通信技術や自動技術を用いた荷役の効率化を図るターミナルです。 これらを活用することにより、物流コストの低減や荷役時間の短縮を図るとともに、陸上輸送のドライバー不足の対応が期待できます。 また、トラック輸送と比較して、フェリー・RORO船を使うことで、ドライバーの労働時間の短縮や休息時間の確保が可能になります。</p>
24	P68 施策Ⅱ-④	<p>志布志湾の中心に位置する枇榔島は国定公園に指定されており、港のあり方を考える上で大きな存在であるが、記載が一切ない。しっかりと位置づけをし、活用を検討すべきだと思料する。</p>	<p>本構想のP20「2-4. 主な観光資源」に志布志港の背後圏に位置する志布志市の観光資源として「枇榔島」について追記します。</p>
25	P66 施策Ⅱ-②	<p>海を育てる取り組みと、漁業の発展を考えた取り組みも整備するべきではないか。 交流拠点となる、みなとオアシス制度の導入には大いに理解するところであり、命を育む海のブルーインフラ拡大を、是非志布志湾でも実現をするべきではないか。 カーボンクレジット制度を見越した取り組みとして、藻場の保全、育成などを行いながら、クレジット分をみなとオアシスや、みなと緑化PPP、もしくはPFIなどの施設運営費にすることで、持続可能な運営を目指すことも考えて頂きたい。 持続可能な環境整備は、持続可能な漁業にもつながること。木材輸出による山林の伐採がすすむ事でも考えられる、川への栄養の不足。そのことを考えると、海そのもので、命の循環を生み出す取組みも、重要な問題だと考えますので、是非整備を頂きたい。 志布志湾で育てられ、地元産となる海産物が並び、食べる事ができる、そういった施設がみなとオアシスにあると、観光も増えるのではないのでしょうか。</p>	<p>御意見の趣旨を踏まえ、環境・エネルギーの具体施策にCO2吸収促進に向けた藻場や干潟の造成や生物共存型港湾構造物を活用した港湾施設整備の促進による環境に配慮した取り組みを追記します。</p>

番号	項目	意見概要	意見に対する県の考え方
26	P84 具体施策スケジュール（物流・産業）	一丁田地域あるいは大原地域などにポータル（所謂どこでもドア）のハブ空港ならぬハブポータルを作る。 港と高速道路と連携し物資や人の流通の要所拠点となり志布志港は栄える。	志布志港は市街地に隣接しており、志布志市においても港湾を活かした「快適」で「安全」、かつ「活力」のあるまちづくりを目指しながら、文化・財産を「継承」していくまちづくりを進めているところです。 このため、本構想において、みなとを中心とした交流拠点の創出などの施策に取り組むことを位置づけているところです。 本構想に基づき、今後とも、志布志市と連携しながら、志布志港の発展と背後地の地域振興につながるよう取り組んでまいります。
27	P85 具体施策スケジュール（人流・賑わい）	港内にコンビニやスーパーマーケットを作る。 港湾関係者はもとより旅行者や流通業者および地元民が利用することにより志布志港は栄える。	
28		周遊バス（フェリーターミナル-駅-市役所-志布志麓-宝満時-漁港-しおかぜ公園-志布志港入り口交差点-サンキュー・ニシムタ-銀座街）を作る。 港湾関係者はもとより旅行者や流通業者および地元民が利用することにより志布志港は栄える。	
29		高速志布志IC付近に道の駅を作る。 港湾関係者はもとより旅行者や流通業者および地元民が利用することにより志布志港は栄える。	
30		後背地（関屋から前川にかけての市街地、台地（安楽川と前川に挟まれた大原・昭和台・上昭和・中学校通・横尾下・弓場ケ尾・宇都など））にコンビニ・スーパーを作る。 港湾関係者はもとより旅行者や流通業者および地元民が利用することにより志布志港は栄える。	
31	P86 具体施策スケジュール（安全・安心）	志布志にも大きな救急大病院が必要であり、高台にメドベットの拠点センターを作る。 港湾関係者はもとより旅行者や流通業者および地元民の医療の要所拠点となり志布志港は栄える。	

番号	項目	意見概要	意見に対する県の考え方
32	P87 具体施策スケジュール（環境・エネルギー）	空間から電力を取り出すフリーエネルギーの拠点センターを作る。企業や家庭をはじめ車両・海の船舶・空の船舶（所謂UFOと呼ばれていたもの）のエネルギー供給拠点となり志布志港は栄える。	本構想では、環境・エネルギーの分野について、臨海部産業の脱炭素化に貢献する港湾空間の創出や次世代エネルギーの受入環境整備などの施策を位置づけています。 志布志港周辺における今後需要を見ながら、取り組んでまいります。
33	全体意見	港湾区域内は、国・県・市の管理区域が明確でなく、道路と工場区域との境界等には、雑草等の伐採管理が悪く、美化環境が良くない。一元化なされた環境整備についても検討いただきたい。	臨港道路及び港湾緑地の維持管理については、限られた予算の中で、主に交通安全上、危険な場所や市街地に近い場所などを優先し草木の伐採、側溝清掃などを行っています。 また、しおかぜ公園については、市に伐採等の維持管理を協力していただいております。今後も志布志市と連携して適切な維持管理が図れるよう努めてまいります。
34		志布志港の東側に新たに突堤を形成して、一部をコアジサシ等の産卵場に開放して頂きたい。また、陸側の浅場にも産卵場を形成することで、Co2の削減や海洋生物のふ化に繋がると考える。40年以前に、鯛の宝庫と言われていた豊かな志布志港を取り戻すためにも、自然環境や生物多様性の観点にも、十分に配慮された開発になる事に期待したい。	御意見の趣旨を踏まえ、環境・エネルギーの具体施策にCO2吸収促進に向けた藻場や干潟の造成や生物共存型港湾構造物を活用した港湾施設整備の促進による環境に配慮した取り組みを追記します。